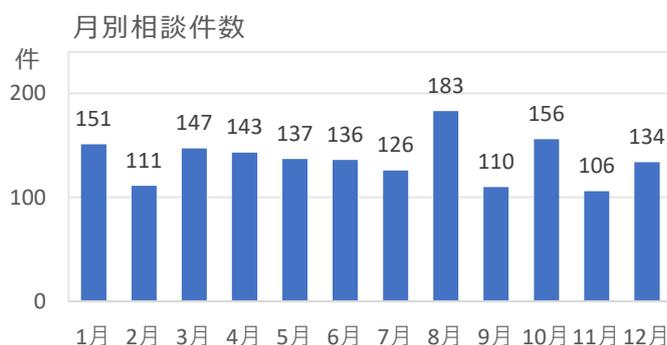


帰省先での子どもの誤飲事故に注意しましょう！

新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和を受け、今年は小さい子どもを連れて実家に帰省するという方もいると思います。中毒110番では8月、特にお盆の時期に祖父母宅で起きた子どもの事故の相談が増加します。



5歳以下の小児の祖父母宅での事故（2018～2022年）



問い合わせが多い製品（のべ 1892 件）

製品	件数 (%)
医薬品	842 (45%)
たばこ	131 (7%)
家庭用殺虫剤	120 (6%)
洗浄剤	94 (5%)
芳香剤	79 (4%)
ボタン電池・乾電池	48 (3%)

次のような相談があります。

「目を離した隙に子どもが祖父の部屋に入り、机の上にあった薬を食べた」

「子どもが、高い場所に置いてあった灰皿を台にのぼって取り、たばこを食べた」

「子どもが床に置いてあった自家製のホウ酸団子をかじった」

祖父母宅は、子どもにとって普段見慣れない、興味を引かれるものが多いです。また、普段大人だけで暮らしている家庭では、誤飲対策が十分に取られておらず、思わぬ事故が起きることがあります。中毒110番では、祖父母などが使用している薬の誤飲の相談が多く、特に血圧降下薬、糖尿病用薬、催眠鎮静薬などは、子どもにとって少量でも危険な場合があり注意が必要です。

● 事故防止のために以下の点に注意しましょう。

- ・ 帰省する側は、子どもは身の回りにあるものを何でも口に入れること、特に薬は危険であることを、祖父母や親戚に事前に伝えましょう。
- ・ 子どもを迎える側は、誤飲する危険があるものを子どもから見えない場所、またはイスや台を使っても届かない場所に保管しましょう。床に設置したホウ酸団子などは一時的に片付けましょう。
- ・ 子どもの滞在中は、周囲の大人が子どもの行動に気を配り、目を離さないようにしましょう。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■ 大阪中毒110番 072-727-2499 ■ つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。